

テーマ

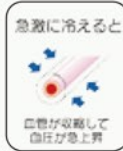
ヒートショックにご注意! 家の中の急激な温度変化を防ごう



死亡者数は交通事故の3倍以上!
 全国で年間約17,000人が命を落とし、決して他人事ではありません。

原因は家の中の温度差

冬場の入浴では、暖かい居間から寒い風呂場へ移動するため、熱を奪われまいとして血管が縮み、



血圧が上がります。お湯につかると血管が広がって急に血圧が下がり、血管に大きな負担がかかり、ヒートショックが起こります。断熱がしっかり施されていない古い家の場合、どうしても各部屋間で温度差が生じてしまいます。

ヒートショック対策=断熱性能を上げること

ヒートショックを防ぐには、家の中で急激な温度変化が起こらないようにすることが大切。脱衣場などに暖房機器を置くことは対策としては有効ですが、断熱性能がない家では熱が逃げてしまい電気代がかかります。つまり、家じゅうの断熱性能を上げることが重要です。構造的に、外壁の表面積が大きいほど熱が失われやすくなることから、窓、屋根(天井)、壁、床の断熱性能を上げることで大きな効果が期待できます。

断熱性能向上、省エネ化工事に 最高100万円の補助制度があります

住まいるの断熱性能を上げる工事を行った場合に、補助を受けることができます。工事内容によりますが、最高100万円(補助率1/2)の補助を受けることができるので、検討中の方はお見逃しなく!

補助の対象となる工事例

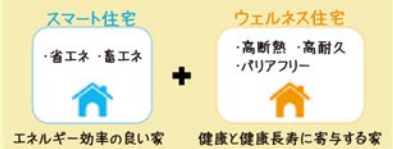
- ・窓の断熱工事(ガラス交換、内窓設置等)
- ・壁、屋根(天井)、床の断熱工事
- ・高効率設備(換気、暖房、給湯機器等)の設置など

※住宅の仕様、工事内容によって条件が異なります。詳しくは当社までお問い合わせください。

住まいる玄では、医師を招いて「スマートウェルネス住宅セミナー」を来年2月に開催します!
 ※詳細は決まり次第、リロケーション及びHPに掲載します。

ご存知ですか? 「スマートウェルネス住宅」

スマートウェルネス住宅とは、エネルギー効率の良い住宅(=スマート住宅)と、安心で安全、健康に暮らせる住宅(=ウェルネス住宅)の2つの性能を持ち合わせた「人と環境にやさしい家」のことで、国土交通省が推進しています。循環器系疾患・呼吸器疾患の予防や居住者の活動性の向上、健康維持増進効果が期待できます。



今月の玄人

設計・監理 眞茅博幸さん



建築の世界で働き始めて約20年のイケメン設計士です。住まいる玄設立当初から、設計・監理に携わっていて、当社の仕様・納まりを完全理解している数少ない存在です。仕事では冷静で黙々と図面を描いていますが、トークが上手で(しかも美声!)、つい話に引き込まれてしまいます。最近、築約100年の自宅を全面リフォームしました。古民家カフェのようなオシャレで温かい空間がお気に入りだそうです。

玄人プロフィール

- *趣味: サーフイン、テニス、パドミントン、家庭菜園
- *好きな食べ物: 焼き魚
- *好きなアーティスト: THE BOOM
- *カラオケの十八番: からたち野道(THE BOOM)
- *ストレス発散方法: スポーツをする!
- *設計士になっていなかったらどんな仕事をした?: 大工さん

「家を作る」ということ

~我が家をリフォームしてみても~

設計・監理 眞茅 博幸



リフォームした自宅

私は、住み手が居なくなった祖父母の家に家族四人で住んでいます。この家は大正時代に建てられており、30年位前からそのとき流行ったであろう新建材のプリント合板を貼りめぐらしてリフォームされていました。100年近く経った無垢仕上材は経年美化され、今なおとても綺麗ですが、数十年前の新建材の部分は傷みが早く、劣化が多数みられました。住まいる玄では木・土・石等の自然素材をふんだんに使用しますが、今回、身をもって材料の大切さや動線・間取りの重要性を感じました。使い捨ての材料や一世限りの家ではなく、時を重ねるごとに風合いを増し、愛情がこもる「代々引き継がれていく家造りを目指したい!」と強く感じるリフォームになりました。